

第1回大分県新長期総合計画策定県民会議

全体会

日時：令和5年9月6日(水) 10:00～11:00

場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間A

No.	項目	発言要旨
1	福祉 (変化1)	<ul style="list-style-type: none"> ・共生共創社会の実現に向けては、新しい仲間を取り込むことが大事。SDGsの高まりもあって、社協にあまり興味を示してこなかった企業・団体が子ども食堂等に参加してくれるようになった。こういう新しい仲間はゲームチェンジャーだと思っている。このため、多様な主体との連携・協働による地域課題の解決は、固定観念にとらわれずに、地域の様々な資源を取り込み、仲間を再定義しながら取り組むことが大事。 ・障がい者施策は、雇用率も大事だが、障がい者がいきいきと生活できる社会に向けた観点は、合理的配慮や芸術文化・スポーツなど多様。多面的な評価ができるような指標の研究もしてほしい。
2	教育 (変化1)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でオンライン授業も可能になり、そうした中ですでに探究的な学びや課題解決型学習の取組も進んでいる。しかし教員の働き方改革もあって、学校現場が付いて行っていない現状がある。地域の力・外部人材を活用した学びを進めていきたい。 ・人口減少下で持続可能性が問われている。この県民会議は、どうやって大分県や地域を維持していくか、そういう持続可能性を考える場になればいいと思う。
3	環境 (変化3)	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化対策は待ったなし。カーボンニュートラルを実現した社会がどのようになっているかという長期的視点を持ち、その社会に向けてどのような変革、トランスフォーメーションを起こしていくか、あるいはいかに新たなビジネスチャンスを生み出していくか、こうした未来の社会像を描くことが論点になると思う。 ・気候変動リスクも高まっている。10年後さらにはもっと長期的に、県民が安全・安心な生活を送れるような県土をいかにつくっていくか、これも論点だと思っている。
4	GX (変化3)	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラルに向けて水素は大きなポテンシャルがある。 ・また、大分県はごみの分別を細かくやっている。サーキュラーエコノミーという言葉があるが、ごみの資源化についてもSDGsに繋がるしポテンシャルがあると思う。
5	交通 観光 (変化5)	<ul style="list-style-type: none"> ・大分県は、製造業・観光業がメイン産業。物流と交流人口を増やす視点を持ちながら、地理的特徴である陸路・海路を強化していくべきだと思う。 ・九州の東の玄関口は、九州に入ってくる入口だけでなく、四国・関西・関東への出口でもあるという観点も重要。 ・観光交流人口の増加に向けては、県内回遊促進と先端技術活用が有効。先端技術は例えば、自動運転バス・タクシー、空飛ぶクルマなどの次世代モビリティやMaaSの積極的活用を検討していく必要がある。 ・広域交通ネットワークを考えることももちろん重要だが、まずは、大分が住み続けたい土地になること、観光で行きたいと思われる県になることが必要ではないか。 ・県政全般では、フックになるような施策は継続し、さらに発展させることも大事。
6	交通 (変化5)	<ul style="list-style-type: none"> ・広域交通ネットワークをつくっていく上では、足下を固めていくことも大事。 ・一つは物流面。災害時における域内バックアップ体制づくり、物流ドライバーの確保や労働環境改善、働き方改革を積極的に推進しなければならない。 ・二つは人流面。人流を受け止め地域に流していくには、バス、タクシーや鉄道の運転手確保・人材不足対策が大事。ここをないがしろにすると、大きい都市だけが盛り上がり、他は盛り上がらないということになってしまう。
7	デジタル 技術 (変化6)	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワークは、DXとともに人材不足対策に寄与する仕組みだと考えている。 ・「テレワークのセントラル化」で人材不足解消を目指す取組を検討できると思う。DXは特定工程を効率化する仕組みだが、テレワークは会社が持つ全工程を集約・効率化することが可能。設備投資なしで業務全体を効率化できる可能性を秘めている。 ・テレワークは、企業に効率的なソリューションを与えると同時に、新しい労働力を生み出す可能性を秘める。仕事を諦めざるを得なかった人にフルタイムの仕事を与えることができたり、介護中の方や子育て中の方、あるいは移住者とか、そういう方々にしっかりと仕事を与えることができる仕組みだと思う。
8	観光 (変化6)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光、とりわけ宿泊業はDX化が遅れている。遅れているからこそ、例えば予約システムのクラウド化を導入しただけで人手不足解消、働き方改革にかなりの成果が出る。一步踏み出すことの重要性を実感している。 ・一つの事業者だけでできないのが観光業。エリア全体、そして温泉県おおいた全体でDXを進めていくことが必要。
9	DX (変化6)	<ul style="list-style-type: none"> ・製造現場ではいわゆる現業スタイルで仕事をしている人が多い。そういう人材との親和性をどう高めていくかがポイント。 ・企業でも県でも、人材を育成しつつDX活用を場を広げていく取組が必要。
10	スポーツ (変化4)	<ul style="list-style-type: none"> ・生まれ育った大分県に貢献したい。どのように大分県をスポーツで元気にできるのか、どのように盛り上げていけるのか、しっかり考えて提案していきたい。